

## 【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立西中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	作文や授業内の記述から、書くことに課題が見られる生徒も多いが、概ね学習に意欲的に取り組んでいる。定期考査の読解問題に関しては、6～7割程度の生徒がB以上に到達しているため、一定の定着は見られる。一方、条件に沿って自分が考えたことや目的に沿って集めた情報を書くことに課題があり、Cの生徒が3割程度いるため、目的に合った情報の集め方、情報の種類についても指導が必要である。	作文の際には、書き方の例を細かく提示したり、作文の条件を絞ったりすることで書くことに対する改善を図る。また、自分の考えを表現する際の話型を学習することで、条件に沿って自分が考えたことや、集めた情報に基づいて意見を書くことの課題を解決し、課題作文等で7割の生徒がBに到達できるよう指導する。
数学	全体的に苦手意識のある生徒も多いものの意欲的に取り組む姿勢は見られる。1学期定期考査の結果、計算分野において整数を扱う基本的な問題については正答率は高い(7割)が、分数や小数を含む計算になると躓く生徒が一定数(2割)いる。また、読解力が不十分なことと一つの問題をいろいろな角度から見ると、考える力に課題があり、文章題や思考・判断・表現を問う問題については正答率が極端に5割未満と低くなる。	個別での声かけや対応をこまめにしていくことを心がけ、学習内容の定着を図る。そのためには反復練習を継続して行う必要がある。授業の中で問題を解く時間をできるだけ多く取り入れ、繰り返し練習することで基本的な計算や学習内容の定着(8割)を図る。また、様々な問題を扱いながら、生徒の視覚に訴えるような教材・教具の工夫を行い、生徒たちの興味・関心を高めるような授業展開をし、一つの問題をいろいろな角度で見る力や考える力を身に付けさせていきたい。
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの結果、難易度が高い課題であっても、粘り強く取り組む生徒が6割以上いる。</li> <li>・1学期の授業の様子から既習の文法事項の定着には時間がかかる。</li> <li>・「話すこと」においては文法事項や表現の精度に課題が見られる。</li> <li>・「書くこと」においては、知っている単語や文法を用いて事実や自分の考えを正確に書くことに課題がある。</li> </ul>	全ての単元では、既習の英文法を確認した後に、新出の表現方法と組み合わせ問題演習を行う学習過程を設定することで学習の定着を図る。生徒と教師との対話場面では、教師は生徒の発話についてフィードバックすることで、生徒が自分が用いた文法について自己評価できるようにする。期末考査の「書くこと」の知識・技能でBに到達する生徒を8割以上に、「話すこと」のパフォーマンステストでBに到達する生徒を8割以上にする。
社会	1学期定期考査の結果、語句や記号の選択などの知識・技能を問う問題については正答率7割であるため、高い。しかし、資料から読み取ったことを記述するなどの思考・判断・表現を問う問題については正答率が6割未満であるため、資料から必要なことを読み取り、自分の言葉で記述することに課題がある。	授業の中で、様々な資料から読み取ったことをプリントやタブレットに記述する活動をできるだけ多く取り入れ、思考・判断・表現を問う問題の正答率を7割以上にする。また、記述する際には複数の視点で考えることができるように声掛けを行う。